



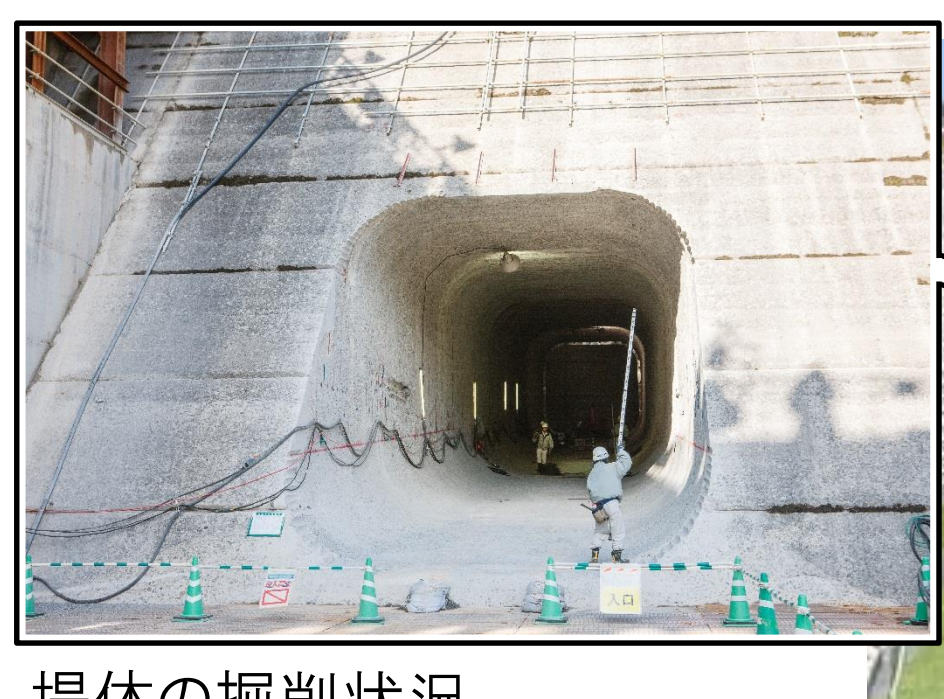
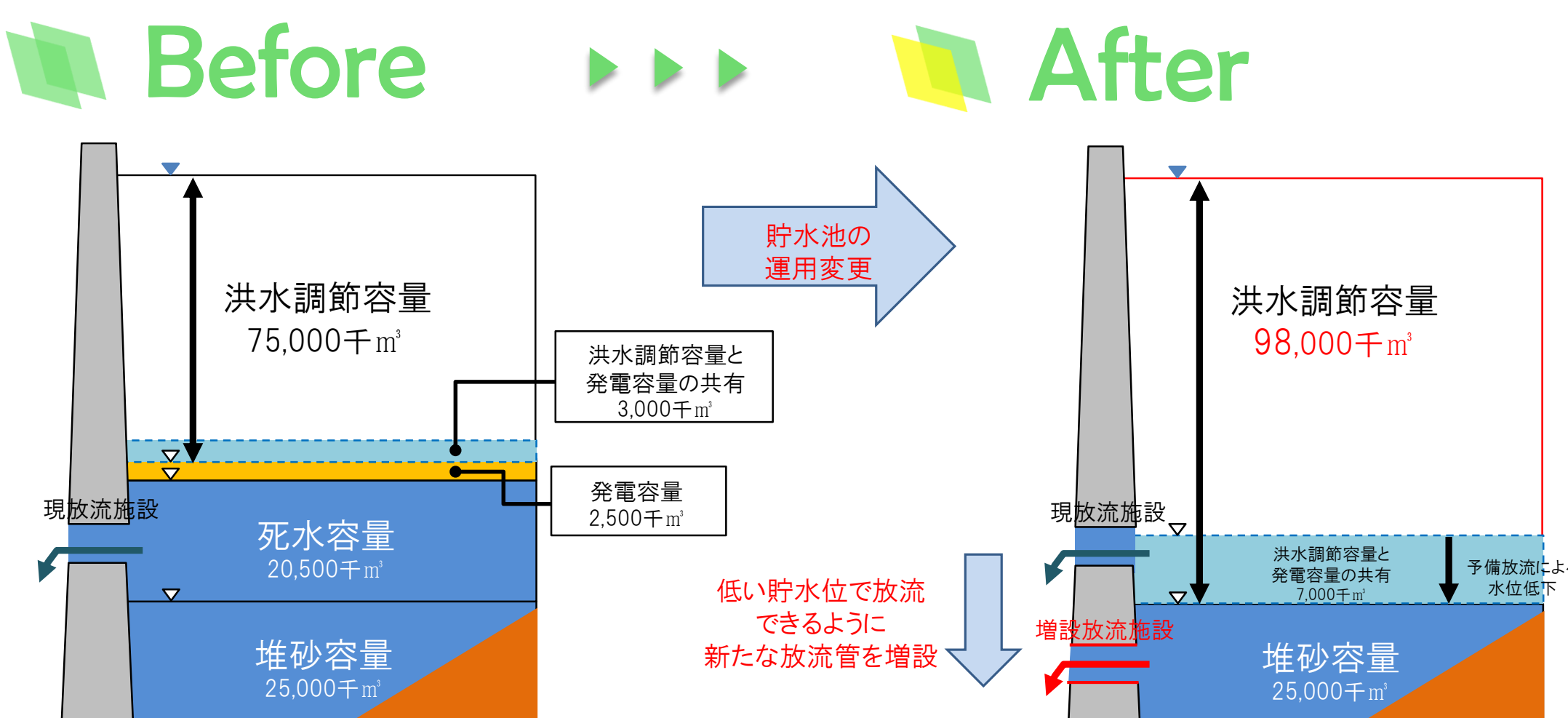
ダムの高度運用 容量活用で被害を抑える

鶴田ダム再開発(鹿児島県)

- 既設ダムを再開発し、短期間で経済的に治水効果を発現
- 台風など大雨が予想される場合に、利水容量の一部を事前に放流。ダムの貯水位を通常時より低下させ、洪水の調整に使える容量の増大を図るなど、既存ダムの徹底活用により、下流の洪水リスクの軽減を図る

■ 鶴田ダムでは、既設ダムを運用しながら、今よりも低い位置に放流管を増やすとともに、洪水調節容量を増大させ、治水機能を向上

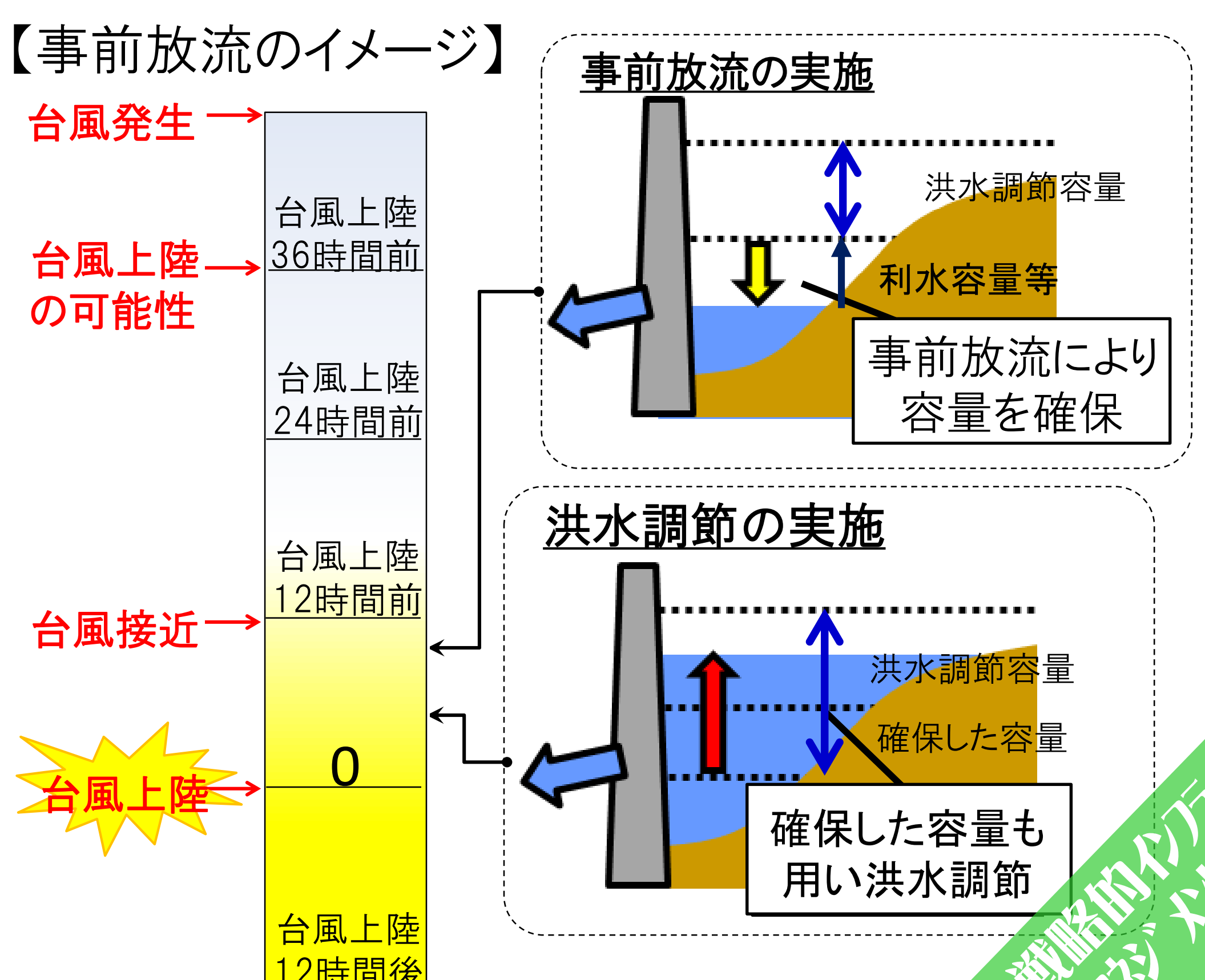
■ 中筋川ダムでは、出水に備えて事前放流を実施
 ■ H26.10台風19号の出水時には、ダムの貯留により、下流の水位を約70cm低下※
 (うち、10cmはダムの事前放流による効果)
※磯ノ川地点



堤体の掘削状況



鶴田ダム完成イメージ



戦略的治水
70%削減